
ONEPIECE 白髪の男

すねえく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ONEPIECE 白髪の男

【コード】

N8883Z

【作者名】

すねえく

【あらすじ】

空き缶を踏んで転び、不良に追いかけられ、トラックに撥ねられ
．
．
死んだ俺は胡散臭い髭オヤジの目の前にいた
よく分からないままONEPIECEの世界に飛ばされて．．．
なんだかんだで海に出ました

序章

真っ白

そう、俺の目の前に広がるのは都会のコンクリートジャングルじゃないといけなはずだった

だが、俺が目覚ますと目の前に広がるのは真っ白な何も無い空間有り得ない、ちよつと待て

俺は確かただの高校生だったはずだ、昨日だって空き缶をふんずけてこけて、何かぶつかつた感触がしたと思つたら目の前には強面の不良さんがいて、相手が1人だから余裕こいてたら何処からともなく不良が出てきて、逃走を開始、前を見るのを忘れていたので当然信号が赤になつたことなど分かるわけもなく、大型トラックに跳ね飛ばされ意識を失うといつた、異常の高校生

・・・あれ、俺死んでない？

死んでるよね、流石に大型トラックに跳ね飛ばされたら確実に死ぬ流石にってのは気にすんな、俺は少しタフだったってことだ

だとしたらここはどこだ？俺が死んだんならきつと天国に連れて行かれるはずなんだが

まあよくある話だと俺の目の前に胡散臭い髭親父が出てきて「わしは神じゃ」とか言っただろうな

直後

俺の目の前に胡散臭い髭親父が出てきて

「わしは神じゃ」

とか言いやがった

「・・・うわぁ」

うわぁ、

まさにうわぁである

そうだ、きつと夢なんだ、ほら、もう少しで消毒液の香りがする病室のベッドの上にいるに違いない

「うわあってなんじゃ、わしは神、お前人間、OK？」

「俺人間、お前変態、OK？」

「生まれてこの方神様に変態などと言った輩は初めて見た」

「それはそうと神様、ここってどこよ？俺どうなの？」

「マイペースな奴じゃな、えーっと簡単に言っと」

自称神様はスウ、と息を吸って

「転生」

「おっしゃー、じゃあさっさとしろ」

「あれ？驚いて？もつと驚いて？わしはお前が不幸すぎてあまりにも不憫だから転生させてやるうって言うのに」

うっせばーか、これは夢なんだ、だしたらこんな馬鹿らしい夢なんか見てられっか

あれ？これが俺の夢だとしたらこの夢を作り出している俺は馬鹿ってことだよな？

・・・まあ、いい

「いやどうでもいいからさっさとしろ髭オヤジ、いい加減怒りますわよ」

「落ちろ」

自称神様がそう言った瞬間

俺の目の前が真っ暗になった

なんだよ、真っ白になったり真っ暗になったり

まあいいか、これで夢が覚めて現実世界に帰れるんだから・・・

そのまま俺の意識は闇へと落ちていった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8883z/>

ONEPIECE 白髪の男

2011年12月27日23時53分発行